



テーマ 懇談①

市の重要施策に関すること

【岩手競馬】

Q これまで競馬組合では、経費節減を行わなかったのか。

A 19年度から、馬主や関連業者など地元の方々に協力いただきながら、本格的な経費節減に努めてきました。「1円でも赤字になれば即廃止」という厳しい条件で今後も努力していきます。

Q 競馬組合への融資は、返済されているのか。返済の見通しはあるのか。

A 競馬組合は、18年度末時点で330億円という巨大な額の債務超過に陥っていま

Q 競馬場に行ってきたが、観客も少なく黒字化は無理だと思った。廃止はできないのか。

したが、構成団体からの融資で全額を金融機関に返済しました。本市は、82億5千万円を競馬組合に融資することになり、25億円は自前の財源から支払いましたが、残りの57億5千万円は県から借りました。借りたお金は、20年以上かけて県に返していく予定です。競馬組合の利益が1億円を超えた場合に、構成団体に返ってくる仕組みになっているのですが、なかなか返済には至っていません。



A 競馬の問題は、本市にとって2つの問題があります。1つは地元の雇用と経済の問題です。もう1つは、融資の際に県から借りたお金を、廃止と同時に返済しなければならぬことです。これは、市の財政にとって大きな問題です。

新計画のルールでは、収支均衡を達成する見込みがなければ、年度途中であっても廃止という厳しいルールになっています。19年度、20年度とも黒字となり、本年度は計画対比で97.8%（6月26日時点）という状況です。計画発売額を下回っていますので、発売の拡大を目指して取り組んでいるところです。

【水沢病院】

Q 地域医療の中で水沢病院の役割を明確にしてほしい。そうすれば、税金の投入も理解されるのではないのか。

A 県の地域医療計画では、胆江地域医療圏の中に位置付けられていますが、機能分担しようにも医師がいなければ立ち行けません。苦しい状況でも水沢病院は、小児科や整形外科などで機能分担を担っています。胆江地区の救急医療は、主に胆沢病院、江刺病院、水沢病院が担っていますが、どこか1つでもやめてしまうとすべてが倒れてしまうため、水沢病院を

存続しなければなりません。

Q 不良債務を公立病院特例債に借り換えただが、利息の面などでどのように改善されたのか。

A 公立病院特例債の利息は、国からの交付税により助成が受けられます。また、経営面では、健全経営を目指し、職員給与の減額や人員削減などの経費節減に取り組んでいるところです。

Q 水沢病院の患者が大幅に減っている。原因は医師不足だと思うが、どのような対応をしているのか。

A 東北大学や岩手医大から医師の派遣を受けていますが、新人医師研修制度の変更などの影響で、大学に医師が残らなくなりました。大学側に派遣要請をしたり、紹介業者に依頼したりしています。市立医療機関で勤務することを条件とした市独自の奨学金制度を立ち上げていて、現在7人が利用中です。ですから、医大生が1人前になる5、6年が窮地です。

Q 土地開発公社は今後も継続するのか。

A 土地開発公社には、現在約100億円の負債

◎平成 21 年度市政懇談会結果報告

市政に対する 「市民の声」を紹介

6月24日から8月28日までの3カ月間にわたって、市政懇談会を開催しました。市4役や幹部職員が市内30会場を巡って歩き、皆さんの声に耳を傾けました。ここでは、皆さんからいただいた質問や意見の一部を紹介します。

■担当部署 / 本庁政策企画課広聴広報係（内線 418）



があり、そのうち6、7割が水沢市土地開発公社で、残りが胆沢郡南土地開発公社などから引き継いだものです。健全な経営となるよう計画的に所有土地を処分して負債を減らし、公社本来の役割である公有用地の迅速な先行取得など、その目的を果たせるよう努力していきます。

Q 土地開発公社の土地を安く販売し、少しでも負債を減らしてはどうか。

A 桜屋敷やマイアータウン、鶴田などの住宅地は、10万円の紹介料を付けてでも販売したいと考えています。工業団地の分譲は利益を生み出しますが、市も計画的に買い戻しを進めていきたいと思っています。